

# 同窓会報

## 新任のごあいさつ

東京都立大学附属高等学校校長

加崎前校長の停年御退職のあと

をうけて、私が本校校長に就任して一年になりました。同窓会の皆様方に就任のご挨拶がおくられましたことをお喜び申し上げます。

私事にわたって恐縮でございますが、私は本校の前身の旧制都立高等学校を、尋常科(中学)を経て、一九四五年(昭二〇)に卒業した者でございます。本校の第一回・二回あたりの卒業生の皆様方とは、恐らく、キャンパスの何処かでお目にかかったことがあるに



## 大蔵隆雄

賜り度く存じます。

違いないと思います。初代校長小笠原先生を始めとして、物理の片山先生、西洋史の金子先生、英語の鈴木三之助先生、図画の松岡先生など、今思い起してもなつかしい素晴らしい先生方が沢山おられ、随分お世話になりました。本校の名物教師として今猶御健在で大活躍の齋先生の、お若かりしお姿を思い浮べることが出来るひとりでございます。東京都立大学に奉職しております関係上とは云いながら、本校の校長をおひきうけする事になりましたのも、何か浅からぬ御縁のなせる業という気が致しております。私のおりました時と同じ校章・校旗・校歌をもつ本校は、いわば私の母校とも云える高等学校であり、浅学菲才の身ながらも、本校の発展のために些かの努力は致す積りでおりますので、どうぞよろしく御指導、御援助を

東京都立大学附属高等学校  
同窓会機関誌 第22号  
発行日：昭和57年6月20日  
発行所：都立大学附属高校同窓会  
〒152目黒区八雲1の1の2  
☎03-723-9966  
発行人：内野滋雄  
編集人：野口貞義・寺脇隆夫  
岡田晴道

本年度より都立高校の入試制度が、学校群制からグループ制に変更され、その結果、少なからぬ都立高校で定員割れ等の事態が生じましたことは、最近の新聞紙上等で、御存じの方も多いかと思えます。しかし、本校の場合には、幸い全員本校を第一志望とする新一年生諸君を迎える事が出来ました。これもひとえに、旧制高校以来の本校の輝かしい伝統を多くの都民の方々に評価していただけたことの表われと、教職員一同非常な喜びを感じると共に、より一層の努力を重ねる責任のあることを自覚して、新学年度を迎える態勢を整えているところでございます。

- 歴代の校長・教頭先生、ことに、加崎前校長、元木、沢田両教頭先生の御努力のおかげで、近年本校では、新しい学校作りに取り組もうとする気運が高まって参っております。東京都立大学の移転問題ともからみまして、文字通りの本校の名称にふさわしい、大学附属校としての性格を強める方向での学校作りを模索しております。その中には、七年制であった旧制都立高等学校の特色を生かした、六年制の中高一貫校の建設なども検討議題としてとりあげられております。公立高等学校としての様
- 昨年3月発売の同窓会名簿を、まだお求めでない方は、同封の振替用紙で、今すぐお求め下さい。
- 名簿の体裁と内容は：**
- 一、体裁 B5判284頁 無線とし
  - 二、内容
    - 1、同窓会会則
    - 2、現職員名簿
    - 3、旧職員名簿
    - 4、第1期生(第33期生)名簿
    - 5、同窓会会員五十音順索引
    - 6、クラブ・サークル別索引
- 特別付録  
校歌、寮歌、記念祭歌集30曲
- ご注文の方法は：
- 一、領布価格 一、HOPE 荷造り、送料とも
  - 二、同封の振替用紙の表面と裏面に記入のうえ、お近くの郵便

局から振替送金をして下さい。この時、郵便局が領収書を発行しますから、大切に保存して下さい。当会からは、領収書は発行いたしません。

★お願い：他の送金方法はご容赦ください。

三、振替用紙が当会に到着しますと、一週間分ずつまとめて発送業務を行いますので、ご注文から名簿の到着まで、20日間程を要することがありますので、あらかじめお含みおきください。

★海外への発送は致しかねます。

クラス会の幹事さんへお願い：クラス会を開催される時には、名簿の販売にご協力下さい。附属高校事務所へ申し込み、売り上げは事務所へお納めください。

今すぐご注文ください!! 「同窓会名簿(昭和56年度版)」

様な制約もございませんし、どの様な案が実現に至るかは未だ予測出来ませんが、何れに致しましても、学校の伝統の上に立った新しい学校を作り上げようと先生方は張切っておられます。どうぞ同窓生の皆様方におかれましても、本校の発展のため一層の御援助を賜りますようお願い申し上げます。

# 新しい高校入試制度

齋正子

中学生の都立高校離れをくいとめるために、彼等が希望する都立高校へ入学出来る様というのが、今年の入試改革のねらいであった。

第2学区では高校のグループが2つあり、戸山、新宿、青山、駒場、広尾、目黒、赤城台と本校の8校は21グループであり、松原、千歳、その他は22グループであった。

受験生は第一志望校の他に第二志望校として3校を順に選んでかくことが出来る。

第一志望校、第二志望校

A校—B校—C校—D校

高校側ではグループの8校分の受入れ人数を試験の成績と内申書できめ、それ以外は不合格とした。合格発表は第一志望校にはり出されるが、その時、第二志望校へまわった者が結局どこに落付いたかも一諸に発表される。今回は第二志望校の順序のえらび方で悲喜がわかれた。新宿、駒場、青山、都大付を第二志望校に選んだ生徒はグループの合格点数はあっても、各校満杯だったから入学出来ないが、戸山は定員われて入学出来るというケースがあった。第二志望の順序のかき方がまずくて合格できぬ受験生のために再志願制がで

き、グループ資格としての点数があれば、グループの中の未定員の他校を新しくかいて合格することができた。

それでも多数の欠員がでた。日比谷、小山台、戸山などの有名校に欠員があり、都立離れとして騒がれた。そして第2次募集が行われた。

科目も英数国の3教科となり、受験資格は合格をすてた者、辞退した者以外はうけられる。

第2次募集の合格点が結構高い生徒もいることからみて、不遇に泣いている子もまだ多いと思つて心がいたんだ。

第一志望校決定後、次々と各校へ受験生をまわす高校側の事務処理の煩雑さもさる事乍ら、不可能だと判つていて有名校を一かばちかて書いて当てたのもいて、何か落着かぬ。

古い卒業生の方たちにとっては、本校の盛衰の波のうごきに感慨を覚えられる方も多いであろう。わが附属高校も紛争の断絶時期から立上り、地域の信頼も高まり、先生方の真面目な日常の努力が実を結んで、教育の効果を高めつつあることをおしらせして報告としたい。

# 「ありし日」

旧職員・社会科 喜多迅鷹

目を凝らせば、まだ第二大戦の傷痕も街のどこかには見つかりそう、そんな遠い昔、私は付高の教師として、あの柿の木坂を上り下りし始めた。試験監督の折り工藤さんが、「十二月また来れり、この冬なんぞ寒きや」などの出てくる萩原朔太郎詩集を読み耽り、齋さんが、「私、なんとか自分の卵をつかまえてみようと思つてい

るんだけど、ダメねえ」と何やらジェンナーにも似た、自己をも被験体にしかねまじい勢いで私をどきとさせ、宮下先生は、「また生徒にねだられてタバコをやつてしまった、どうしよう」と浮かぬ表情だった。この宮下先生とは修学旅行の時の京都の街で、百発百中の射的の腕を発揮して、景品をこごとくかつさらい、店の主人に

音を上げさせた覚えがある。この修学旅行と言えはである。驚くべきことに、この時下見に行つたのは、教師の私ではなく生徒だった。授業を放り出したこの生徒は、全コース、全旅館の下検分をし、教師の食膳には酒一本ずつを付けるといった、涙の出るような交渉までやつてきた。そして当日、教師の私もこの生徒に引率されて、いそいそと修学旅行に出発したのである。そのせいか、私はこの人の前に出ると、今でも何となく生徒になつたような気分になる。「先生同窓会報に何か書いて下さい」「ハイノ」といった工合にである。

思えば、恐るべき生徒であり、恐るべき教師であり、恐るべき学校だった。校長も校長だった。何のために修学旅行についてきたの



ロクちゃんこと小笠原録雄校長（喜多先生の版画・吉永一郎先生提供）

か、京都のお好み焼屋の鉄板の前で、何やら訳の分らぬ唄みたいなものを口ずさみながら、食べもしないお好み焼きを山と積み上げては喜んでいたロクちゃん（小笠原録雄校長）の姿を、私は今に忘れられない。挙句の果てに校長は、生徒と肩を組んで飲み屋にまで繰り込んだのだから始末が悪い。校長を籠絡したこの張本人たちは、帰ってきたあと旅館の廊下で齋先生からしたたかピンタを食つてい

た。障子越しにその音が聞こえた。「先生、ついでに右のほつべたもやつて下さい」と言つていたのは誰だったろう。私もピンタこそ食わなかつたが、齋先生にはこつびどく叱られた。その夜、深更までの旅館広間での生徒大会、帰校後の全校生による生徒大会等々……その後の経過は、当時の人々の周知のとおり。語れば長い話し、恥多き懐旧談になるが、私には、「自由と自治」を絵にしたら、こんなにもなるうかと思われるような展開ぶりだった。

こうして教師と生徒とが同じ非行を演ずることがなくなつて久しく経ち、「自由と自治」も大衆社会の中で完膚なきまでに辱められたあと、私もようやく踏跟として永の学園からさまよい出たのであつた。

現役の先生方の実名を使わせていただいたことを陳謝し、心からご健闘を祈ります。なお、これ、生徒は読まないでしようね。

# 最近の素粒子物理学

筑波大学物理学

原 康夫 (3期)

私が物理学に関心を持ち始めたのは都立に在学中のことで、そのきっかけは同期の友人達から受けた知的な刺激でした。生れつき問題があると論理的な方法で解答が出てこないと気がすまない(単細胞的な)性質だったことと、抽象的な思考があまり得意でなかったという理由で、自然現象という具体的な対象を数学的に取扱う理論物理学の道に入って行ったように思います。

自然科学の研究は、科学者達が科学的好奇心に従って各人がオリジナリティを発揮しつつ個別的に進めるものですが、個人的行為であると同時に社会的現象でもある訳で、いくら自分が良い研究だと思っても、他の研究者達が素晴らしいと思ってくれなければ研究の客観的な価値が生じません。そこで物理学の発展の主流(が形成される際には、かなり人間的な要素が支配するのですが、やがて徐々に落着くべき所にはぼ落着くことになりま。そこで「最近の」という形容詞は「多数派の」あるいは「主観的な」と御理解下さい。物理学には対象のスケールに応じた物理学(自然法則)がありま

す。高校で学習する物理学は主として日常生活で経験する現象の物理学です。物理学は手法的に分析的な学問なので、物質を細かく分解していった、物質の基本的な構成要素を探求し、この基本的な構成要素の性質とその間に働く力の研究を行う分野は重要な研究分野で、素粒子物理学と呼ばれています。

物質は分子の集りで、分子は原子、原子は原子核と電子、原子核は陽子と中性子から構成されています。陽子、中性子、電子、それに陽子と中性子を結びつけて原子核を作る役割を演じる中間子などは基本的な粒子という意味で素粒子と呼ばれています。しかし陽子、中性子、中間子などはさらに基本的な「クォーク」と呼ばれる粒子から構成された複合粒子だと考えられています。クォークは電気素景(陽子や電子の電荷の大きさ)の1/3か2/3倍という半端な電荷をもつ粒子です。陽子や中性子に電子を衝突させて反応を調べると、陽子や中性子がクォークから出来ていると考えられると良く理解できるのですが、不思議なことには衝突する電子のエネルギーをいくらか大きくしても陽子

や中性子から半端な電荷をもつ粒子は飛び出して来ないのです。そこで陽子や中性子はクォークから

## タイムトンネル

(株) ケイ・パック代表取締役

久米 宏 (13期)

すっかり春めいた日曜日の午後久しぶりに学校まで行ってみました。

柿ノ木坂の交差点から駅の方へ曲って、懐かしいススキた様な薄茶色の塀が見えてくると、思いがけずドキ／＼してきます。おそは屋さんも昔通りなのを確か認して、塀ぞいに、高校の正門の方へ歩いていきます。

都立大付属高校に入学したのが、昭和三十五年、卒業が三十八年。もう二十年も昔の話です。

コンクリートの塀なんてものはないものなんだ、と感心しながら、「大学生の駐車お断わり」の立札の立つた大学の門の前を通ります。(二十年前は、自動車で乗りつける大学生なんて考えられなかった。)

高校の門の前へやってきます。

構成されているがクォークは陽子や中性子の中に閉じ込められているというのが主流派の考えです。これは、原子論を提案したギリシヤの自然哲学者達が、いろいろな種類の原子の差は原子の構造の差によるが、原子は分割不可能だと考えていたことと似ていると言え

そうです。クォークは5種類存在することが確かめられています。果して何種類存在するのか? その性質は? 宇宙が創成されたときにクォークの果たした役割は? などいろいろな話題もあります。

左側のコンクリートに、何かを剥がした跡が白っぽく残っています。

「アレツ、なくなっちゃったノ」それじゃあ、右側だったかな。「アッタ、アッタ。コレ、そうかな。コレだっけ? 違うかなアコレ……。」

高校二年の時だったと思います。記念祭で喫茶店をやるという事になり、クラスの友人と相談し、店の名前を考えたり、どの女の子を誘おうかと、楽しい苦労をした思い出があります。

名前は「ベガサス」ということになりました。記念祭の期間中結構繁昌しました。

余談ですが、大きな魔法瓶にいったんいっばい作ると、インスタントコーヒーの味がひと際よくなることを、この時発見しました。

あの喫茶店で幾ら儲けましたっけ。とにかく、利潤が予想をはるかに上回り、そのお金をめぐって、良心との葛藤を数日繰り返しました。

やがて衆議一決、校門に看板をつけよう、それを寄附しようということになりました。

眼に渗みるぐらいキラキラ輝いていたプレートは、もうすっかり黒ずんでいます。確かに二十年間の時の流れはあつたに違いありません。

楽しすぎた高校時代の思い出のせい、その頃齋先生のお宅で飲みすぎたワインの二日酔いの痛みを突然思い出したせい、振り返った時、校門のプレートがちよつとだけピカッと光ったような気がしました。

# まちがいがいだらけの同窓会

映画監督

吉松安弘 (2期)

同窓会という言葉から「通俗」とか「退嬰的」とかの連想がうかんでくるのは、やはり、過去の人間関係を振り返るその性格からきているのだろうか。

それにも拘らずこの頃は、多くの関わってきた学校の同窓会がにわかには盛んだ。

都立の同期会は、何年前か前か一年一回の集まりが年中行事のようにならざるを得ないし、大学のサークル仲間や同級の連中からも、「こいらで一発……」なんぞと、まんざらでもなさそうな声がかきこえてくる。

去年は小学校の同期会までひらかれた。三十五年振りである。ぼくらは、小学校の五・六年生を集団疎開というやつで過したのであって、今年はその同窓会を想い出の湯沢でひらく計画もたてられた。ところが、そのむかし可愛いかった、いまはやはりよくと同年輩のあの子から強硬な反対意見が出た。彼女は驚の親方の女房になつてゐるのだな。

なにが間違いでなにが正解か、人の付き合いはやってみなければわかりはしないが、誰も確信をもつた反論は出来ないまま、結局湯沢ゆきは潰れたらしい。

同窓会がにわかには流行りだしたのは、ぼくらの年齢に関係がある。昭和ひとけたの最終ランナーになるぼくら二期生は、もはや四捨五入を二回ほどすると百歳になる勘定、四捨五入などしなくとも、むかしは想像も出来なかつた姿にのぼりつめてきたわけだ。

この、相当にどうしようもない年齢にのぼり、さてあたりを見るときは、とまわりは血縁と利縁害縁の人間関係ばかり、それも可成り向う側が透けて見えたりする縁だ。そこで、字義通りにパンを分けあつた学生時代のカンパニーと「こいらで一発……」となつてくる。

いや、一発どころか、ここいらでもう一度あらたにスタート台に立つぐらいのかまえてないと思ひついでに、とぼくは思うのだ。平均寿命の伸びた今日、ぼくらは百歳までは生きるだろう。その可能性は多きい。とすると、少くともたつぱり五十年の余裕があるわ

けだ。これだけあれば、相当なまちがいがいもしてかせるのではあるまいか。

すでにぼくらは、これまで五十年近くやってきたのではなかつたか。結構それぞれに、何人もの人を好きになり、何人もの人を憎みながらを望んで努力を重ね、なにかを心ならずも失なつてきた。どうやら半途、ここらで殊更に、あと五十年の過し方についてともど

もに語らう価値はあるだろう。若さにたいして、常識的な劣等意識をもつことはない。二十歳前後の時代に青春という呼び方があるなら、五十歳前後に紫春はどうだ。紅春も捨て難いか。

吸えば紫、咬みつきや紅よ色で仕上げたこの身体

荷風日記の日附の上につけられた小さな朱点が、彼の情交のこころ覚えであることはよく知られている。ある人がその最終日を調べたら昭和十九年十月十八日、荷風六十三才の時であり、そのあとにも緑点や着点があつたとか。人生五十年と云われた星と錨と闇のセコイ当時ですらこの通り。荷風先

生に負ける手はない。まちがいが常態のような街ニューヨークで、ぼくのルームメイトだつたマイクは云う。「ヤスは、どうしてそんなにエトジ・コンシヤスなんだい」

ぼくは直ちに反論する。「俺はむしろ反エージ・コンシヤスなんだよ。年相応」とか「らしさ」とかいう保守的な発想をやめろと主張しているんだから」

まちがいはほとんど起こせばいい。まちががつた人間関係が同性の間にも異性の間にも横行しているような、そんな素敵な同窓会を望むのは、いままさら無理というものだろうけれど。

## 私の仕事

武蔵野市福祉公社ソーシャルワーカー 加瀬裕子 (20期)

私の職場は、不動産を担保にした、契約によつて老後生活を保障しようという事業を、全国に先がけて行つてゐる武蔵野市福祉公社である。私は、公社設立の準備に参加し、公社創設後は、ソーシャル・ワーカーとして働いている。

ソーシャル・ワーカーとは、大部分の方にとつて耳慣れない言葉であろう。また、欧米で言われたいる本来の意味とも、多少違つた使い方でもある。そこで、三月某日の私の仕事を具体的に紹介して

みよう。まず出社すると、さつそくお年よりからの電話である。相談の上、一日おきの昼食に公社の弁当をとることになり、その手配をする。

そのうちに相談者が現われ、市民ではないので転入してサービスを受けたいとの訴え。公社の制度を説明し、相談にのる。午後は、ボランティアを召集して、お年よりのハイキングの打ちあわせをする。そのあと看護婦からの報告をつけ、ケース処遇の方針を検討している

と、お年より宅から呼び出しがあり、かけつけてみると、お年よりとホームヘルパーが悶着を起している。原因は、白あえを作る豆腐のすり方であつた。ついに仕事の間にあわなくなり、残業をして利用料金の請求書を作る。これに、

マスコミからの取材、他の自治体などからの視察などが割り込むから、昼休みもろくにとれない。つまり、私達は何でも屋なのであるが、お年よりの状況と将来の資金展望をもつてサービス設計を

記念祭に行こう!!

今年の記念祭は9月24日(金)〜26日(日)

85

野村

# 今、私にとって都立は：

各界で活躍されている同窓会々員の皆様から、「今、私にとって都立は……」というテーマで、ミニ・エッセイを頂きました。

27年卒2期生

加藤亜興

私にとっての都立は、とてもこの小さなスペースに書く事の出来ない程大きな、スバラシイ、そして尊いものなのです。その中でも大きなものは、「都立の友人達」です。私にとって都立の友は、この上もなく大切な宝物なのです。こんなにも巾の広い、奥の深い、多くの友を与えてくれた都立に心から感謝をし、都立で学べた事を誇りに思っています。多くの良き友に恵まれて、健康で働ける幸せを、今しみじみと感じている所です。現在零細企業の社長をしています。

38年卒13期生

猪熊建夫

たいていの人にとって出身学校とりわけ出身高校(旧制高校を含む)は懐かしいものだが、残念ながら私にとって都立は、懐かしさ以上のものはない。おそらくは、あの高校が首都に立地しているためだろう。地方出身者のように、「郷里」と「母校」を織り重ねて憶い出すことは不可能である。わが母校が地方にあったならば、もっと強烈な印象がまぶたに焼きついてい

毎日新聞社経済部記者

40年卒15期生

広瀬幸夫

20年前、社会は原潜寄港・平和運動の社共分裂・ベトナム戦争へと動いた。これら一連の出来事と自分の関係を思考することから、物事をより広く把握する訓練が出来た。ややもすると、専門的立場に偏向しがちな環境にあつて、社会的動向に関心が持てることは高校時代の薫陶の賜物である。同時に、専門的立場を越えて語り合える友を、都立を通して、得たことは今の私にとって何にも換え難い。

RUTGERS大学(米国) 研究員

ルポ・ライター

41年卒16期生

安藤則浩

「もの」の見方(観かた)、考え方の基本を覚えた。見慣れた景色も、高いところから観たり、裏側に回ったり、また、逆立ちして観たりすると、新しい美しさに気づく。一流といわれる道を、二流の生き方で歩くより二流といわれる道を、一流の生き方で歩く方が、ずっと素晴らしい。こんなことに気がついたのが、都立時代だった。ばくにとつての転換点だった。

朝日新聞整理記者(地方担当)

44年卒19期生

越村隆二

腹を割って話せるような教師がいなかったから、都高の三年は人間学的な意味で空虚なものだった。取材記者をしていた時期があり、地方の高校生と付き合う機会が多かったが、彼等の生々とした顔

見るたび、自らの、貧弱なまやしのような生気なき青春を無念に思った。伝統らしきものを云々していた教師の狭さ、それを半ば信じたようにした自分。高校生活を忘れようという形で都高を思う。

若林由美子

46年卒21期生

若林由美子

養護学校の生徒は、精神が薄弱どころか、真実や妙を云いあてることがある。先日ある生徒は「がんばってくださいいばくちちも心の中(心)のついています」と云った。文法は違っているが私には本当に思えた。それぞれ、仕事に追われる毎日だけれど、今の方が、あ

多幸を「心の中に」のついています。神奈川県立保土ヶ谷養護学校教諭

37年卒12期生

中村正子

一九六〇年に高校二年生だったというのに、私にとって都立大付高時代とは、これまでの人生で最もものんびりと自分のペースで生きていた時代だったと思います。多

少目が開き「社会の中の自分」ということに気づいたのは大学を卒業してから。以来10数年がたち娘も一人、仕事や住民運動などで忙しい毎日ですが、心はまだ青春

在学生のためにお願ひ 同窓生の著書を図書館へ

前号でもお知らせしました通り本校図書館に「卒業生著作コーナー」を設けます。そこで、同窓生の方が出版された図書がありましたら、生徒達のために、一部御

寄贈いただけませんか。 斉 正子

## 第32期 同窓会役員決まる

A組 山口 晴司  
B組 河井 美和  
C組 加藤 英明

D組 日原 高志  
E組 小石 祐介  
F組 矢崎 秀彦

33年卒4期生 田中 甫 どうも都立時代に、私は何でも思った通りにする悪癖を身につけてしまったらしい。24年たった今でも、その悪癖は抜けるどころか、益々ひどくなって、他人様なみに家族もいるというのに、勤

先を三度もかわり、国内にもいろいろ仕事はあるものを、好んでパナマなぞに入り浸っている。だけど私は思う。おかげで人生に退屈しないですんでいるのではないかと。野村総合研究所 国際研究部勤務(在パナマ)

